

WHO news April 2025

2025 年 4 月 1 日

[New WHO guidance calls for urgent transformation of mental health policies](#)

The World Health Organization (WHO) today launched new [guidance](#) to help all countries reform and strengthen mental health policies and systems..

WHO の新指針：メンタルヘルス政策の緊急な改革を求める

世界保健機関 (WHO) は、各国がメンタルヘルスに関する政策や制度を改革し、強化するための新たな[指針](#)を発表しました。

世界中でメンタルヘルスサービスは依然として資金不足であり、アクセスや質に大きな格差があります。一部の国では、重度のメンタルヘルス疾患を持つ人の最大 90 % がまったく治療を受けておらず、既存のサービスの多くは、国際人権基準を満たさない時代遅れの制度モデルに依存しています。この政策ガイダンスは、メンタルヘルスに対する当事者中心、回復志向、権利に基づくアプローチを推進することを目的として、[WHO QualityRights イニシアティブ](#)の下で開発されたリソース、ガイダンス、ツールを基にし、世界的な専門家、政策立案者、当事者経験者の協議を経て作成され、最新の証拠と国際人権基準に沿ってメンタルヘルスサービスを変革し、質の高いケアがすべての人に利用可能となるようにするための明確な枠組みを提供します。

WHO は、技術支援や能力開発イニシアティブを通じて、各国がこのガイダンスを実施できるよう支援します。

2025 年 4 月 1 日

[Decades of progress in reducing child deaths and stillbirths under threat, warns the United Nations](#)

Number of under-five deaths declined to 4.8 million in 2023, while stillbirths remained around 1.9 million, according to two new UN reports.

国連が、乳幼児死亡と死産を減らすための数十年にわたる進歩が脅威にさらされていると警告

国連の子どもの死亡率推計に関する機関間グループ (UN IGME) が発表した 2 つの新しい報告書によると、5 歳の誕生日を迎える前に死亡する子どもの数は 2023 年には 480 万人に減少しましたが、死産児数は依然として 190 万人前後で、わずかな減少にとどまりました。

2000 年以降、世界中で子どもの生存率向上に向けた持続的な投資が続けられた結果、子どもの死亡数は半分以下に、死産数は 3 分の 1 以上減少し、2022 年には、子どもの死亡数が初めて 500 万人をわずかに下回るという歴史的な節目を迎えました。しかし、進展は鈍化しており、予防可能な原因で命を落とす子どもが依然としてあまりにも多くいます。

5 歳未満児の死亡のほぼ半数は、出生後 1 か月以内に発生しており、その主な原因は早産と分娩時

の合併症です。 新生児期を過ぎると、肺炎などの急性呼吸器感染症、マラリア、下痢などの感染症が、予防可能な子どもの死亡の主な原因となります。

また、45 % の死産は分娩中に発生しており、その主な原因は、母親の感染症、分娩の長期化や難産、そして適切なタイミングでの医療介入の不足です。

最近、主要なドナーが今後大幅な資金削減を行うと発表または示唆したことにより、数十年にわたって進歩してきた子どもの生存率が今、危機にさらされ、救命を目的とした子どもの生存プログラムへの世界的な資金援助の減少により、ヘルスケア従事者の不足、診療所の閉鎖、予防接種プログラムの中断、マラリア治療薬などの必需品の不足が生じています。

こうした削減は、人道危機に直面している地域、債務に苦しむ国々、すでに高い子どもの死亡率を記録している地域に深刻な影響を与えています。

世界的な資金削減は、モニタリングや追跡調査の取り組みを弱体化させ、最も脆弱な子どもたちへの支援を困難にする可能性があります。機関間グループは警告しています。

2025 年 4 月 1 日

[Fully-funded Gavi, the Vaccine Alliance, is a lifeline for child survival, says WHO](#)

In the next 5 years, Gavi will protect at least 500 million children from preventable disease and in so doing save an additional 8-9 million lives.

Gavi ワクチンアライアンスは子どもの生存のための生命線 ; 十分な資金が必要

Gavi ワクチンアライアンスは、世界保健機関 (WHO) 、ユニセフ、ゲイツ財団を中核的な創設メンバーとして、世界最貧国が救命可能な新しいワクチンを利用できるように支援し、EPI ワクチンの普及率を高めることで、EPI の恩恵を拡大することを目的として設立されました。

ワクチンは人類の偉大な功績のひとつです。

米国をはじめとする世界各国の政府が主導し、国際機関が支援する**拡大予防接種**プログラム (EPI) の一環として実施された世界的な予防接種活動により、過去 50 年間で推定 1 億 5400 万人の命が救われ、世界中で乳児の生存率向上の 40 % は予防接種によるものであり、今では歴史上かつてないほど多くの子供たちが 1 歳の誕生日を迎え、さらにその先も生き延びています。この成功の多くは、2000 年に設立された Gavi ワクチンアライアンスへの投資によるものです。

2000 年以降、Gavi は 10 億人以上の子供たち、つまり 1 世代全体を感染症から守り、78 カ国に及ぶ低所得国における乳幼児死亡率を半減させることに貢献しました。2000 年から 2023 年にかけて、Gavi は世界中の子供たちを 16 の生命を脅かす感染症から守るため、637 のワクチン導入と予防接種キャンペーンを支援しました。ワクチンは高い効果を発揮し、予防接種は投資 1 ドルにつき 54 ドルの利益を生み出す「ベストバイ (best buy) 」な健康対策で、Gavi への投資削減は、この進歩を台無しにする大きな脅威となります。今後 5 年間で、Gavi は少なくとも 5 億人の子供たちを予防可能な病気から守り、それによってさらに 800 万 ~ 900 万人の命を救うこととなります。

Gavi は米国およびその他のドナーによる継続的な支援がなければ、世界は予防接種率の危険な後退の危機にさらされることになり、予防接種ゼロの子供たちが増え、病気のアウトブレイクが増え、国境を越えて広がる病気も増え、健康への脅威も増え、5 歳の誕生日を迎えることのない子供たちが増えるで

しょう。

感染症は国境で止まることはありません。 予防接種を受けていない、あるいは不十分な接種しか受けていない子供や大人がいる地域では、麻疹やその他の感染症が蔓延しやすくなります。 これは、米国や世界中で見られる現象です。 これにより、すべての命が危険にさらされ、個人や政府はアウトブレイクへの対応に多大なリソースを費やし、すでに不足している医療システムのリソースをさらに圧迫することになります。

すべての子どもには健康の権利があります。 感染症に対する最善の防御策は、すべての人々への命を救う予防接種への継続的な投資です。 私たちは、これらの病気からすべての子どもと地域社会を守るという取り組みから目を背けるわけにはいきません。 過去 25 年間の予防接種による成果を覆すことは、私たちすべてにとって深刻な脅威以外の何ものでもない、誰もが認識すべきです。 命を救う予防接種をすべての子どもたちに継続的に提供できるよう、Gavi への投資を継続することが重要です。

2025 年 4 月 1 日

[A unified call for One Health: driving implementation, science, policy and investment for global impact](#)

As global leaders in human, animal and environmental health, the Quadripartite collaboration comprising the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), the United Nations Environment Programme (UNEP), the World Health Organization (WHO), and the World Organisation for Animal Health (WOAH) reaffirms its unwavering commitment to advancing the One Health approach.

ワンヘルスへの統一された呼びかけ：世界的な影響をもたらすための実施、科学、政策、投資の推進

人、動物および環境の健康におけるグローバルリーダーとして、国連食糧農業機関 (FAO)、国連環境計画 (UNEP)、世界保健機関 (WHO)、国際獣疫事務局 (WOAH) の 4 者による連携は、ワンヘルス・アプローチの推進に、揺るぎないことを再確認します。

薬剤耐性、人獣共通感染症、食品安全リスクや気候変動に関連する健康への脅威まで、今日の健康問題の複雑性は、統合的で十分なリソースを備えたワンヘルスによる対応を必要としており、ワンヘルスへの投資は選択肢ではなく「必須」で、それは、将来の健康危機を予防し、経済的損失を軽減し、グローバルヘルスの安全保障を強化し、持続可能な開発を促進するための戦略的かつ費用対効果の高いアプローチです。

このアプローチは、人、動物、植物、生態系の健康をバランスよく最適化し、人と動物と環境の接点における健康リスクに対処するために不可欠で、世界中でワンヘルスの実施を拡大するためにパリにある WOAH 本部で第 3 回 4 者間執行部年次会合において、緊急かつ戦略的で持続的な支援と投資を呼びかけます。

4 者協議は、今日ワンヘルスに投資することは、より安全で健康で強靱な未来への投資であると強調しています。世界は待つ余裕はありません。私たちは政策立案者、ドナー、グローバルリーダーたちに、公約を具体的な行動に移し、ワンヘルスを効果的に実施し、誰一人取り残さないよう断固とした行動を取るよう呼びかけています。

2025 年 4 月 1 日

[Second WHO Global Conference on Air Pollution and Health concludes with powerful commitments to protect public health](#)

The Second WHO Global Conference on Air Pollution and Health has concluded with major commitments from over 50 countries, cities and organizations ready to tackle air pollution and safeguard health.

「第 2 回 WHO 大気汚染と健康に関するグローバル会議」 公衆衛生を守るための力強い公約で閉幕

「第 2 回 世界保健機関 (WHO) 大気汚染と健康に関する世界会議」は、大気汚染対策と健康保護に取り組む 50 カ国以上の国、都市、組織による大きな約束をもって閉幕しました。

コロンビア政府との共同開催となったこの会議には、政府代表、国連機関、市民社会、科学者、健康関連団体など、100 カ国から 700 人以上が参加し、大気汚染と公衆衛生対策の加速化を目指しました。

毎年何百万人も命を救うため、2040 年までに健康への影響を 50 % 削減するという共通の目標が合意されました。さらに、新たな資金援助の誓約と政策が公約として提案されました。

2025 年 4 月 8 日

[Aid cuts threaten fragile progress in ending maternal deaths, UN agencies warn](#)

Women today are more likely than ever to survive pregnancy and childbirth according to a major new report released today, but United Nations (UN) agencies highlight the threat of major backsliding as unprecedented aid cuts take effect around the world.

国連機関、援助削減は妊産婦死亡の防止を脅かすと警告

世界健康保健デーに発表された国連報告書「[Trends in maternal mortality](#) (妊産婦死亡率の傾向)」によると、2000 年から 2023 年の間に妊産婦死亡率は世界的に 40 % 減少しました。これは主に、基本的な医療サービスへのアクセスが改善されたことによるものです。しかし、2016 年以降、改善のペースが大幅に鈍化していることが明らかになっており、2023 年には妊娠や出産に伴う合併症により、推定 26 万人の女性が死亡したとされています。

この事象の背景には、人道支援の資金削減が世界中の多くの地域で不可欠なヘルスケアに深刻な影響を及ぼしており、各国が妊産婦、新生児、そして子どもの健康のための重要なサービスを縮小せざるを得ない状況に追い込まれており、保健医療施設の閉鎖や医療従事者の不足が生じ、また、妊産婦死亡の主な原因である大量出血、妊娠中毒症、マラリアなどの治療に必要な救命物資や医薬品のサプライチェーンの混乱があります。

また、地域間および国間の根強い不平等や、進展のばらつきに寄り、2000 年から 2023 年の間に妊産婦死亡率が約 40 % 減少したサハラ以南アフリカでは、大きな成果が達成されましたが、高い貧困率と複数の紛争に直面するサハラ以南のアフリカ地域は、2023 年には依然として、妊産婦死亡の世界的負担の約 70 % を占めていました。

妊産婦の死亡を防ぐためには、緊急の投資が必要です。現在、世界は国連の持続可能な開発目標

(SDGs) の妊産婦の生存に関する目標の達成に向けて、予定より遅れをとっています。2030年の目標を達成するには、世界全体で毎年、妊産婦死亡率を約 15 % 削減する必要があります。

緊急の対策を講じなければ、複数の国々で妊婦が深刻な影響を受けることになると、各機関は警告しています。

2025年4月8日

[WHO issues its first-ever reports on tests and treatments for fungal infections](#)

The World Health Organization (WHO) today published its first-ever reports addressing the critical lack of [medicines](#) and [diagnostic tools](#) for invasive fungal diseases, showing the urgent need for innovative research and development (R&D) to close these gaps.

WHO が真菌感染症の検査・治療に関する初の報告書を発行

世界保健機関 (WHO) は、侵襲性真菌症の治療に不可欠な [医薬品](#) および [診断ツール](#) の深刻な不足に関する初の報告書を公表し、このギャップを埋めるための革新的な研究開発 (R & D) の緊急性を示しました。

真菌症は公衆衛生上の懸念事項として増加しており、口腔や膣カンジダ症の原因となるカンジダ菌などの一般的な感染症は、治療に対する耐性を強めています。

これらの感染症は、重病の患者や免疫機能が低下している患者に特に大きな影響を与え、がん化学療法を受けている患者、HIV 感染者、臓器移植を受けた患者などが含まれます。

治療法の進歩により、免疫機能が低下した状態で生き延びる人が増える可能性が高くなり、侵襲性真菌症の症例も増加する可能性があります。WHO の [真菌優先病原体リスト \(FPPL\)](#) で最優先カテゴリーに位置づけられている真菌は致死性が高く、死亡率は 88 % に達します。

WHO の [抗真菌薬に関する報告書](#) では、過去 10 年間で米国、EU、中国において承認された新規抗真菌薬はわずか 4 種類で、9 種類の抗真菌薬が未だ臨床開発段階にあります。しかし、臨床開発の最終段階である第 3 相にあるのは 3 つの候補薬のみであり、今後 10 年以内に承認される見込みはほとんどないと考えられます。

診断ツールの入手が困難であること、抗真菌薬の供給が限られていること、新しい治療法の研究開発プロセスが遅く複雑であることなどから、この問題は管理が難しい複雑な課題となっています。

新しい [診断レポート](#) によると、真菌の優先病原体に対する市販の検査は存在するものの、それらの検査は設備の整った研究所と訓練を受けたスタッフに依存しているため、低・中所得国 (LMIC) のほとんどの人々には恩恵がありません。

すべての国々、特に LMIC では、幅広い真菌の優先病原体に対するより迅速で、より正確かつ安価で、より簡便な検査、そして医療現場やその近辺で使用できる診断ツールが必要です。

2025 年 4 月 8 日

[The 7th Global Ministerial Summit on Patient Safety 2025](#)

At the conclusion of its deliberations, the Summit adopted the [Mandaluyong Declaration](#), which recognizes the need for a renewed sense of urgency to accelerate action and calls for making patient safety a universal imperative by establishing patient safety as a foundational pillar of resilient, people-centred and equitable health systems that deliver quality care and drive improved health outcomes.

第 7 回 患者安全に関するグローバル閣僚サミット 2025

各国が[グローバル患者安全行動計画 2021 - 2030](#) の実施において進展を見せているにもかかわらず、行動と改善の加速化が急務となっています。

4 月 3、4 日、フィリピン共和国保健省が主催し、WHO が共催した [第 7 回 患者安全に関するグローバル閣僚級会合](#) がフィリピンのマニラで開催されました。「医療の連続性を通じて患者安全の未来のために強みを結集する」をテーマとしたこのサミットには、64 カ国からの代表者、学術界、専門職、国際機関からの専門家、そして患者とその代表者が一堂に会し、[第 1 回 グローバル患者安全報告書 2024](#) で特定された実施ギャップへの対応に焦点が当てられました。

サミットは、行動を加速させるために新たな危機感が必要であることを認識し、『質の高いケアを提供し、ヘルスアウトカムを改善を推進する、強靱で患者中心の公平なヘルスシステムの基盤となる柱として患者安全を確立により、患者安全を普遍的な必須事項とすることを求める』

[マンドルヨン宣言](#) (Mandaluyong Declaration) を採択しました。

2025 年 4 月 8 日

[WHO unveils bold commitments at Nutrition for Growth Summit](#)

The World Health Organization (WHO) has announced 13 ambitious commitments across 8 key areas at the [Nutrition for Growth \(N4G\) Summit](#), hosted by the Government of France.

WHO、パリ栄養サミットで大胆な取り組みを発表

栄養不良は依然として世界的な危機であり、すべての国に影響を与えています。2022 年には、世界中で約 3 億 9,000 万人の 18 歳以上の成人が低体重であり、25 億人が過体重で、その中には 8 億 9,000 万人の肥満患者が含まれています。さらに、5 歳未満の 1 億 4,800 万人の子供たちが発育阻害に苦しみ、3,700 万人が過体重または肥満でした。低・中所得国を中心に、5 歳未満の子供の死亡原因のほぼ半分が栄養不足に関連しています。

世界保健機関 (WHO) は、フランス政府主催の[栄養サミット](#) (N4G) において、8 つの主要分野 (貧血、健康的な食事、モニタリング、学校給食、ナトリウムの削減、肥満、消耗症、気候変動) にわたる 13 の野心的な公約を発表し、WHO テドロス事務局長は、開催に際し「栄養は健康の基盤であり、それゆえ、個人、家族、コミュニティ、社会、エコノミーの繁栄の基盤でもあります。それに対し、いかなる形であれ栄養不良があるところでは、病気がすぐ後に続きます」と強調しました。

さらに、このサミットでは栄養分野における世界的な資金調達として 280 億米ドルが調達されました。これは、2021 年の前回のマイルストーンである 270 億米ドルからの増加となります。これは、

開発援助分野における主要な資金危機に直面する中、世界的な連帯の肯定的な兆しであり、希望に満ちた瞬間を表しています。また、栄養状態の改善を通じて、すべての人々の健康とウェルビーイングを向上させるといふ各国の取り組みが拡大していることも示しています。

2025 年 4 月 8 日

[Healthy Beginnings, Hopeful Futures – On World Health Day WHO calls for an immediate ceasefire in Gaza](#)

On World Health Day, with the theme “Healthy beginnings, hopeful futures,” the Gaza Strip continues to be one of the most dangerous places to be a child and where pregnancy is clouded by fear due to ongoing violence, displacement and lack of medical access.

世界健康デーに WHO がガザ地区での即時停戦を呼びかけ

ガザ地区には推定 55,000 人の妊婦がおり、そのうち 3 分の 1 はハイリスク妊娠に直面しています。毎日約 130 人の赤ちゃんが誕生しており、そのうち 27 % は帝王切開によるものです。新生児の約 20 % は未熟児、低体重児、または合併症を抱えて生まれており、高度なケアが必要ですが、その数は急速に減少しています。2025 年 3 月 18 日から 4 月 4 日までの間、戦闘の再開以来、500 人以上の子供と 270 人以上の女性が死亡したと報告されています。3 月 2 日以降、ガザ地区には支援物資が一切入っておらず、飢餓と栄養不良の危機が深刻化し、清潔な水、避難所、適切なヘルスケアを欠いた状態が続き、病気や死亡のリスクが高まっています。

脆弱な状況に置かれた医療システムにも、子どもを含む負傷者の流入に圧倒されています。しかし、支援ルートへの封鎖により、WHO が提供する帝王切開、分娩時の麻酔や疼痛管理、輸液、抗生物質、外科用縫合糸など、妊産婦と子どもの健康のための物資は極めて不足しています。

治安上のリスクや立ち入り制限により、WHO の対応は大幅に妨げられていますが、物資が不足する中、保健医療施設への支援と母子保健サービスの強化に向けた取り組みは継続されています。重点は、必須医薬品、設備、物資の供給、医療従事者の訓練、そして安全な出産と病気の子供の治療を可能にする緊急医療チームの派遣に置かれています。

WHO は、緊急に支援物資の封鎖解除、ヘルスケアの保護、ガザ地区全域における人道支援への妨害のないアクセス、日常的な医療避難の即時再開、人質の解放、そして恒久的な平和への道筋となる停戦を呼びかけています。

2025 年 4 月 8 日

[The multigenerational charge for women’s health and gender equality](#)

During the 69th Commission on the Status of Women (CSW69), held from 10–21 March 2025, countries from around the world reaffirmed their commitment to gender equality through a high-level political declaration.

女性の健康とジェンダー平等に対する世代を超えた取り組み

3月10日から21日にかけて開催された第69回国連婦人の地位委員会(CSW、Commission on the Status of Women)では、世界各国がハイレベル政治宣言を通じてジェンダー平等への取り組みを再確認しました。宣言では、女性の権利に対する世界的な取り組みを改めて表明し、後退を認め、生涯を通じて達成可能な最高水準の身体的およびメンタルヘルスの権利の保護を含む、緊急かつジェンダーに対応した政策行動を呼びかけました。

この提唱の大きな転機となったのは、3月10日に開催されたWHOの公式サイドイベント「女性の健康なくしてジェンダー平等なし(仮訳)」(No gender equality without women's health)で、このイベントは、WHO、英国、メキシコ、UN Women、世界経済フォーラムの共同主催によるものでした。

ジェンダー格差の是正の主要な要素として、また特に世界中で反人権的な主張が高まる中、健康を通じて、生涯にわたる女性の健康の格差に対処するための根拠に基づくアプローチを求める統一された呼びかけが強調されました。

すべての女性が総合的なケアに普遍的にアクセスできなければ、北京行動綱領の主要な公約に関連する目標は達成不可能なままです。

女性の健康はニッチな問題ではなく、生涯を通じて取り組むべき世界的な問題であると強調され、女性の健康への投資はオプションではなく、2030アジェンダの達成に不可欠であり、私たちの共通の価値観を反映しています。

世界的な課題が山積する今、女性の権利を擁護するジェンダー対応型のヘルスシステムや政策の推進は、これまで以上に急務となっています。

2025年4月15日

[Countries are already experiencing significant health system disruptions – WHO](#)

The World Health Organization (WHO) issues warning on health service disruptions reported in 70% of its surveyed country offices as a result of sudden suspensions and reductions in official development assistance (ODA) for health.

各国の医療システム、深刻な混乱に直面

世界保健機関(WHO)は、健康のための政府開発援助(ODA)の突然の停止や削減により、調査対象の70%の国々で保健サービスの混乱が報告されているとして警告を発しました。

3月から4月にかけて、主に低所得国および低中所得国の108のWHO国別事務所を対象に実施された新たな実態調査では、多くの国が資金不足に対処するため、国内および代替的な外部資金源からの資金の増額または再配分に取り組んでいることが示されています。

調査の主な結果は以下の通りです。

- ODAの停止や削減は、保健システムの機能をすべて混乱させており、最も頻繁に報告されている影響は、保健緊急事態への備えと対応(70%)、公衆衛生監視(66%)、サービス提供(58%)、人道支援(56%)、保健医療従事者(54%)です。
- 少なくとも回答国の3分の1では、保健サービスが全般的に混乱しており、アウトブレイクの検出と対応、マラリア、HIV、結核、性感染症、家族計画、母子保健サービスにおいて、高いレベルの混乱が報告されています。

- サービス中断の性質と規模は、一部の状況下では、COVID-19 パンデミックのピーク時に観察されたものと同程度です。
- 医薬品と医療製品の供給不足が深刻なため、回答した国の 3 分の 1 が主要サービス分野の製品を入手できない状況にあります。
- ODA の一時停止により、回答した国の半数以上で医療従事者とヘルスケア従事者の雇用が失われ、研修に重大な中断が生じています。
- 情報システムは特に大きな影響を受けており、主要な健康データの収集が中断されています。40 % 以上の国々で、共同監視および緊急システム、健康管理情報システム、疾患別報告システム、検査情報システム、世帯 / 人口調査など、主要な情報システムに中断が生じています。

2025 年 4 月 15 日

[WHO launches first-ever guidelines on meningitis diagnosis, treatment and care](#)

The World Health Organization (WHO) has today published its first-ever global guidelines for meningitis diagnosis, treatment and [care](#), aiming to speed up detection, ensure timely treatment, and improve long-term care for those affected.

髄膜炎の診断、治療、ケアに関する新ガイドライン

世界保健機関 (WHO) は、髄膜炎 (meningitis) の診断、治療、[ケアに関する](#)初のグローバルガイドラインを発表しました。

一部の髄膜炎に対しては効果的な治療法やワクチンが存在するものの、依然としてグローバルヘルスにおける重大な脅威となっています。多くの病原体が髄膜炎を引き起こす可能性があり、細菌性髄膜炎は最も危険な形態で 24 時間以内に死に至ることもあります。2019 年には世界で 250 万件の髄膜炎症例があったと推定されており、この中には、約 24 万人の死者を出した 160 万件の細菌性髄膜炎の症例が含まれています。

この新しいガイドラインは、感染者の早期発見、迅速な治療、長期ケアの改善を目的として、特に低・中所得国での実施に適した技術的指針を提供するために開発され、この病気が原因で死亡したり障害を負ったりするリスクを減らすための重要なツールで、とりわけ生後 1 か月以上の小児、青年、および急性市中髄膜炎を発症した成人に対する臨床管理について、エビデンスに基づく推奨事項を提供しています。

2025 年 4 月 15 日

[Malaria progress in jeopardy amid foreign aid cuts](#)

Since 2000, investments in the global malaria response have prevented more than 2 billion cases and nearly 13 million deaths. Yet efforts to control and eliminate malaria are in jeopardy as communities and programmes face the fallout of recent funding cuts.

「援助削減」：マラリア対策の進展が危機に！

マラリアは予防や治療が可能な感染症です。2000年以降、世界的なマラリア対策への投資により、20億件以上の発症と1,300万件近い死亡が予防されてきました。しかし、迅速な診断と治療が行われなければ、特に幼児や妊婦の場合、急速に重症化し、死に至ることもあります。2023年だけでも、マラリアによって約60万人の命が奪われ、そのうちの95%がWHOのアフリカ地域で発生したと推定されています。

近年の資金削減の影響により、地域社会やプログラムが打撃を受け、マラリアの抑制と根絶に向けた取り組みが危機に瀕しています。

2010年から2023年の間、米国は二国間および多国間の両方のチャンネルを通じて、世界のマラリア対策資金の平均37%を拠出しました。米国が支援するマラリア対策プログラムへの資金提供は一部復活したとはいえ、中断により深刻なギャップが生じました。2025年のマラリア対策プログラムへの資金削減により、さらに数百万人の命が危険にさらされ、リスクの高い集団に継続的な予防と治療サービスを迅速に提供しなければ、米国やその他のグローバルパートナーの長年にわたる投資によって得られた数十年にわたる進歩が完全に覆される可能性があります。

過去20年以上にわたり、殺虫剤処理蚊帳(ITN)はアフリカにおけるマラリア予防対策の要となってきましたが、ITN配布キャンペーンの40%以上が遅延または中止の危機に瀕しています。5,800万人の子供たちを守るための季節性マラリア予防内服(SMC)キャンペーンの約30%も予定から外れてしまい、迅速診断検査や医薬品の在庫が極めて低いレベルにまで落ち込んでいます。強靱で自立した保健システムを実現するには、保健分野への国内投資の拡大と、利用可能な資源の戦略的活用によって効果を最大化することが必要です。

WHOとパートナーは、各国政府と市民社会が持続的な資金を確保し、最もリスクの高い人々を保護するための総合的な解決策を提供できるよう、引き続き支援に尽力します。

2025年4月15日

[Statement of the forty-first meeting of the Polio IHR Emergency Committee](#)

Based on the current situation regarding WPV1 and cVDPVs, and the reports provided by affected countries, the Director-General accepted the Committee's assessment, and on 09 April 2025 determined that the poliovirus situation continues to constitute a Public Health Emergency of International Concern (PHEIC) with respect to WPV1 and cVDPV.

ポリオ：公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) をさらに 3 ヶ月継続

3月6日、ポリオウイルスの国際的拡大に関する国際保健規則(2005)(IHR)に基づく緊急委員会の第41回会合が開催されました。

委員会では、アフガニスタンやパキスタンでの野生株ポリオウイルス(WPV1)感染例の増加傾向、および、ナイジェリアやエチオピア等での循環ワクチン由来ポリオウイルス(cVDPV)の拡大などを報告し、さらに2027年までに野生株ポリオウイルス(WPV1)の根絶と撲滅の証明、2029年までにワクチン由来ポリオウイルス2型(cVDPV2)の根絶と撲滅の証明という世界的な目標を念頭に、WPV1とcVDPVに関するデータを検証しました。

加えて、アフガニスタンやパキスタンでの野生株ポリオウイルス (WPV1) 感染例の増加傾向、および、ナイジェリアやエチオピア等での循環ワクチン由来ポリオウイルス (cVDPV) の拡大などを報告し、4月9日に事務局長は WPV1 と cVDPV などポリオ感染拡大の状況は、依然国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) であると判断しました。

2025年4月15日

[Trends in maternal mortality 2000 to 2023: estimates by WHO, UNICEF, UNFPA, World Bank Group and UNDESA/Population Division](#)

The United Nations Maternal Mortality Estimation Inter-Agency Group (MMEIG) – comprising WHO, the United Nations Children’s Fund (UNICEF), the United Nations Population Fund (UNFPA), the World Bank Group and the United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division (UNDESA/Population Division) has collaborated with external technical experts on a new round of estimates covering 2000 to 2023.

近年の妊産婦死亡率の推移：WHO、ユニセフ他の推計

2023年には毎日、700人以上の女性が妊娠・出産に関連する予防可能な原因で死亡しています。しかし、持続可能な開発目標 (SDG) の目標 3.1 は、2030年までに妊産婦死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減することです。

国連の「妊産婦死亡率推定に関する機関間グループ (MMEIG)」は、世界保健機関 (WHO)、国連児童基金 (UNICEF)、国連人口基金 (UNFPA)、世界銀行グループ、国連経済社会局人口部の 5 つの機関で構成されています。今回、新たな推定値の算出には過去の推計から改良された入力データと手法を使用し、国際比較が可能な最新の妊産婦死亡率推計値とその傾向が示されています。

2025年4月22日

[WHO Member States conclude negotiations and make significant progress on draft pandemic agreement](#)

Following 13 formal rounds of meetings, nine of which were extended, and many informal and intersessional negotiations on various aspects of the draft agreement, the INB today finalized a proposal for the WHO Pandemic Agreement. The outcome of the INB’s work will now be presented to the Seventy-eighth World Health Assembly for its consideration.

「パンデミック協定」、5月の世界保健総会で採択予定

WHO 加盟国は 3 年以上にわたる集中的な交渉の結果、協定草案を策定し、本年 5 月に開催される世界保健総会で検討される予定です。

パンデミックから世界をより安全にする取り組みにおいて大きな一歩を踏み出しました。

協定草案のさまざまな側面に関する多くの非公式交渉および休会期間中の交渉を経て、政府間交渉会議 (INB) WHO パンデミック協定の提案を最終決定しました。この、INB の作業成果は、第 78 回

世界保健総会で検討される予定です。

INB が作成した文書の提案には、病原体アクセスおよび利益配分システムの構築、ワンヘルスアプローチを含むパンデミック予防に関する具体的措置の実施、地理的に多様な研究開発能力の構築、パンデミック関連の健康製品の製造のための技術および関連知識、スキルや専門知識の移転の促進、熟練した訓練を受けた学際的な国内および世界的な健康緊急事態労働力の動員、調整的な財政メカニズムの設置、準備、即応性、医療システムの機能と回復力を強化するための具体的措置の実施、および世界的なサプライチェーンと物流ネットワークの構築など、多くが含まれています。

この提案は、各国が自国の国境内で公衆衛生問題に対処する主権を有することを確認し、協定案のいかなる条項も、WHO に国内法や政策を指示、命令、変更、規定する権限を与えたり、各国に渡航者の入国禁止や受け入れ、ワクチン接種の義務付けや治療・診断措置の実施、ロックダウンの実施など、特定の措置を義務付ける権限を与えたりするものと解釈されてはならないと規定しています。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>